

第4回「国際金融都市・東京」構想に関する有識者懇談会
仲條委員提出資料

2021年5月28日

FCTの位置付け、都との役割分担の明確化 / その他(英語化対応、情報発信等)

◆FCTの位置づけ・基本的な考え方(12ページ)について

FinCity.Tokyoに東京都の誘致主体として明確なお墨付きがあれば、誘致活動が行いやすいと思われる。

◆英語化対応(14～27ページ)について

外国企業にとって、日本のビジネス環境のコンサーンの上位に常に「人材採用の難しさ」が指摘される。お示しの英語化対応に加えて、マルチリンガルの日本人を採用しにくいということがあるのでは。人材確保支援も重要。

◆情報発信(28～36ページ)について

企業のビジネスフェーズによって、発信すべき情報の内容は異なる。具体的な拠点設立手続きが始まる前には投資決定のプロセスがある。まずそこにもっていくための空気づくり、モメンタムづくりが大事。例えば、プレス招聘や、金融系外国人有力者、有識者に金融市場、拠点としての東京の魅力などを語ってもらうこと、国際会議を誘致するなどが考えられる。

◆KPIの基本的な考え方(52～54ページ)について

計測可能性のある指標を活用するとの指摘があったが、幾つかの指標については都内の外資系企業にアンケート調査を実施する等、定期・定点的調査で計るというやり方もあるのではないか。

投資誘致にいたる組織内での流れ

企業行動発意する要素

- ・市場としても魅力や認識の拡大
- ・ビジネスリソースとしての魅力や認識の拡大（人材、技術、パートナーなど）
- ・トップセールスによる行動の喚起
- ・報道や有識者発言による気づき
- ・ライバルの動き… など

